

3 - 5 . 国際会議等における情報収集

2015年9月、国連持続可能な開発サミットで採択された「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」や同年12月に欧州委員会(European Commission: EC)から公表された「サーキュラー・エコノミー」など、環境や持続可能性をキーワードとした国際的な枠組みが構築されるなか、公共調達存在感が高まっている。17目標、169ターゲットからなるSDGsでは、ターゲット12.7「持続可能な公共調達(Sustainable Public Procurement: SPP)の慣行を促進する」が掲げられ、サーキュラー・エコノミー政策においても公共調達がサーキュラー・エコノミーを実現する重要な政策として位置付けられている。現に、国連環境計画(UNEP)では2012年にブラジル・リオデジャネイロで開催された「国連持続可能な開発会議(Rio+20)」にて採択された「持続可能な消費と生産に関する10年計画枠組み(10 Year Framework of Programmes on Sustainable Consumption and Production Pattern: 10YFP)(別称: One Planet Network)」の事務局を担い、環境ラベル等を活用してSPPの世界的促進を図るSPPプログラムを展開している。一方、欧州では欧州連合(European Union: EU)が2014年に公共調達指令(Directive 2014/24/EU、2014/24/EU)において環境や持続可能性に配慮した調達を求めるよう改定したほか、アジア地域でのSCP促進を目指すプログラム「Switch-Asiaプログラム」にて公共調達に関する取組も実施している。このように世界各地で既存の公共調達のSPP化が加速するとともに、未成熟な国々ではその法体系が急速に整備されていくなか、関連法規と最新動向を把握することは、我が国の強みである環境対策技術・製品の海外への普及を進める点において非常に重要である。しかしながら、公共調達政策に関する情報はいまだ限定的で、インターネットや文献調査では十分な情報収集が困難な国・地域も存在する。そこで、グリーン公共調達(Green Public Procurement: GPP)や環境ラベルに関する国際会議等に参加することで現地の最新動向を把握するとともに文献調査等によって得られる情報を補完することが望ましいことから、平成31年度は以下の国際会議に参加して、最新情報の収集に努めた。

表 3-5-1. 参加した国際会議等

日程	会議名	開催地	主催
2019年5月 21日~22日	SPLC Summit 2019	アメリカ・オレゴン州ポートランド	Sustainable Purchasing Leadership Council(SPLC)
2019年9月 25日~26日	GIZ主催国際イベントワークショップ「Reduce! Rethinking Circular Economy」	タイ・バンコク	ドイツ国際協力公社(GIZ)
2019年10月 22日、23日	世界エコラベリング・ネットワーク年次総会(GEN AGM)	中国・蘇州	世界エコラベリング・ネットワーク(GEN)、中環連合(北京)環境認証センター有限公司(CEC)
2019年10月 25日	中国環境ラベル設立25周年記念国際シンポジウム	中国・蘇州	中国環境開発センター(EDC)、中国生態環境部(MEE)、CEC

アメリカで大統領令 13834 号及び関連連邦法、連邦調達規則(FAR)をもとに持続可能性が考慮された公共調達が実施されていることは、過年度までのインターネット及び文献調査のほか、2016 年に公益財団法人日本環境協会が環境省との共催で開催した国際シンポジウムにて講師として招待したアメリカ連邦環境庁(GSA)の専門家からのヒアリング等によって確認している。一方、連邦政府を除く州政府以下の地方公共団体は、当然のことながら連邦政府を対象とした大統領令や FAR などの適用を受けず、GPP や SPP は独自の施策で行われていることから、その取組状況については把握できていない。アメリカは言わずと知れた経済大国であり、アメリカ政府が主導している省エネルギー環境ラベル制度「国際エネルギースタープログラム」が各国の公共調達に多大な影響を与えていることから、アメリカの最新動向を注視することが求められる。そこで、UNEP が事務局として運営している 10YFP の SPP プログラムの MAC メンバーにも連ね、当該分野において年々その影響力が増している SPLC が毎年開催している SPLC Summit に参加した。

財務省「貿易統計」によると、2018 年の地域別貿易でアジアは 54.9%、ASEAN は 15.5% を占め、その貿易規模は増加の一途をたどっている。特に ASEAN 地域は、今後さらなる経済成長が見込まれ、その地理的・歴史的結びつきから進出している日系事業者も多く、GPP や環境ラベルに関する最新情報のニーズが強いことから、過年度でも重点的に情報収集に努めてきた。調査の結果、タイを中心に ASEAN 地域において GPP 及び環境ラベル制度の技術支援プログラムを展開している GIZ が、新たにブータン、カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナムを対象とした新しいプログラムを立ち上げることが分かった。ベトナム以外の対象国は、GPP 及び環境ラベル制度はいまだ構築されておらず、これからの発展余地が大きいとともに欧州指向の制度設計がなされる懸念もあることから、その動向を注視していくことが肝要である。そこで、タイ・バンコクで開催される GIZ の新しいプログラムのローンチイベントを兼ねた GIZ 主催国際イベントワークショップに参加し、ASEAN 地域の最新動向を把握するとともに、ASEAN 地域のなかでも新興国である当該 5 カ国の情報収集を行った。

タイプ 環境ラベル制度の国際ネットワーク組織である GEN は、加盟団体が一堂に会する年次総会(AGM)を開催している。AGM では、GEN の年間活動の報告や次年度の活動計画を議論するだけでなく、外部機関や事業者を招いたワークショップを開催し、他分野とのコミュニケーションを深めながら最新動向の知見共有を図っている。また、2019 年の AGM を主催する CEC が、中国環境ラベル制度設立 25 周年を記念する国際シンポジウムを AGM に合わせて開催した。中国の公共調達制度は、中国生態環境部(MEE)が公布する政府調達品リストからの調達が求められ、中国環境ラベルの取得がリスト掲載の条件となっていることから、日系事業者から最新情報を求めるニーズは高い。そこで、タイプ 環境ラベル制度を取り巻く最新状況に加え、中国における最新動向も把握することを目的に GEN AGM 及び中国環境ラベル設立 25 周年記念国際シンポジウムに参加した。

また、UNEP が主導する SPP プログラム等の GPP 及び環境ラベルに関するウェビナーについては、ウェビナーをはじめ SPP プログラムの活動がほとんど行われていない現状を踏まえ、エコマーク事務局も参画している同じく 10YFP の採択プログラムである

Consumer Information for SCP のもと行われたウェビナーを 3-5-2 項にて報告する。

3 - 5 - 1 グリーン公共調達及び環境ラベルに関する国際会議

1) SPLC Summit 2019

(1) 開催概要

日時	2019年5月21日(火)～22日(水)
場所	アメリカ・オレゴン州ポートランド
会場	Hilton Portland Downtown
主催	SPLC (Sustainable Purchasing Leadership Council)
スポンサー	HP Inc., Interface, Inc., EcoVadis, JPMorgan Chase & Co., Ecolab Inc., Borrego Solar Inc., 他
出席者	アメリカ政府機関をはじめ地方公共団体や民間企業の調達担当者、政策決定者、企業、研究所、国際機関の専門家、環境ラベル機関、NGO の担当者など約 500 名 < 日本からの出席者 > 小林 弘幸 公益財団法人日本環境協会 エコマーク事務局 事業推進課 主任
言語	英語

(2) 日程

1 日目(2019年5月21日(火))

6:30-7:30	Group Run on Portland Waterfront
7:30-18:00	Registration Open
7:30-8:30	BREAKFAST
7:30-8:30	New Attendee Welcome Orientation Breakfast
8:30-9:15	Opening Plenary: Sustainable Purchasing that Supports a Positive Future for All
9:15-9:45	KEYNOTE- Future Fit Leadership: The Secret to Leading Big, Fast, and Lasting Change
9:45-17:20	Exhibit Hall Open
9:45-18:30	Recharge Lounge Open
9:45-10:10	NETWORKING BREAK + Waste Tour
10:10-11:10	Breakout Sessions / Round 1
	Supply Chain Transparency Is Now a Business Imperative: Important Trends in Disclosure, Traceability, Big Data, and New Value Creation
	Sustainability in Cloud-Services Procurements
	Public Sector CPO Perspective: How Sustainable Procurement Adds Value
	Can Your Purchases Reverse Global Warming?
	Sustainable Purchasing 101: What is Sustainability & Sustainable Purchasing, Exactly?
	Get to Know the SDGs: Explore and Discuss How Procurement Can Advance the Sustainable Development Goals
11:10-11:35	NETWORKING BREAK + Waste Tour
11:35-12:35	Breakout Sessions / Round 2
	Leveraging Supplier Sustainability Ratings within Public Sector & Private Sector Purchasing
	From Living Products to Living Buildings: Transforming the Health & Sustainability of Our Built Environment
	Making the Case for Plant-Forward Dining: Food Service Procurement Best Practices and Success Stories from Leading Institutions
	Impact Prioritization on a Budget: How Procurement Can Leverage Others' Learnings and Approaches
	Sustainable Purchasing 102: Uncovering Policy Alignment and Engaging

	Internal Stakeholders to Support Your Sustainable Purchasing
	Get to Know the SDGs: Explore and Discuss How Procurement Can Advance the Sustainable Development Goals
12:35-13:45	CPO Roundtable Lunch (Invite Only)
12:35-13:45	PEER-TO-PEER LUNCH
13:45-15:20	Innovation Accelerator
13:45-15:20	CPO Workshop: Finding the Hidden Barriers to Innovation in Your Organization (Invite Only)
15:20-16:20	EXHIBITOR HAPPY HOUR + Waste Tour
16:20-17:20	Breakout Sessions / Round 3
	Inspiration Station: Purchasing that Makes a Positive Social Impact
	How Procurement Can Accelerate Sustainability Collaboration Across Complex Supply Chains: Labor & Human Rights in Electronics
	Accelerating a Culture of Sustainable Procurement through Staff Engagement and Training
	Leading change Without Friction: Idea Flow Mapping Workshop with Leith Sharp
19:00-22:30	SPLC's Party: A Community Celebration

2 日目(2019 年 5 月 22 日(水))

6:30-7:30	Group Run on Portland Waterfront
7:30-12:45	Registration Open
7:30-8:30	BREAKFAST
8:30-9:45	Plenary Session
9:45-13:25	Exhibit Hall Open
9:45-15:30	Recharge Lounge Open
9:45-10:10	NETWORKING BREAK + Waste Tour
10:10-11:10	Innovation Accelerator
11:10-11:25	NETWORKING BREAK + Waste Tour
11:25-12:25	Breakout Sessions / Round 4
	Charting a Path to Leadership: The Journey of Three Sustainable Purchasing Programs
	Buying Renewables: How Leaders are Shifting Energy from a Cost Center to an Asset
	Purchasing for Zero Waste: 3 Case Studies from Higher Education
	Solving Plastic Pollution: Collaborating with Market Competitors and Like-Minded Companies To Achieve Success
	Sustainable Purchasing 201: Making the Case for Investment in Your Organization's Sustainable Purchasing Program
	Circular Procurement in Practice: Public Sector Buyer Focus
12:25-13:25	LUNCH WITH EXHIBITORS + Waste Tour
13:25-14:25	Breakout Sessions / Round 5
	Strategies and Tactics to Achieve Science-based Targets through Sustainable Procurement and Supplier Engagement
	The Six Classes: An Easy Way to Avoid Toxic Chemicals, Stay Ahead of Regulations, and Procure and Produce Healthier Products
	The Importance of Supplier Diversity to Sustainability and Visa Versa
	eCatalog Integration: Simplifying Access to Sustainable Products
	Sustainable Purchasing 202: Setting Strategic Sustainable Purchasing Goals and Metrics
	Circular Procurement in Practice: Private Sector Buyer Focus
14:25-14:35	Transition
14:35-15:35	Breakout Sessions / Round 6
	Human Rights in Procurement: Modern Slavery & Human Trafficking
	The Role of Procurement in Achieving a Sustainable Workplace – from Office to Building
	Engaging Suppliers: Using SPLC's Supplier Development Toolkit to Engage Suppliers in Sustainability
	Sustainable Purchasing 301: Measuring Impact: Using a Roadmap Approach to Develop KPIs and Metrics for your Highest Priorities
15:35-17:15	SPLC Award Ceremony
17:30-	Post Summit Happy Hour

(3) 会議の概要

2013年に設立されたアメリカの非営利組織である Sustainable Purchasing Leadership Council (SPLC¹) が、持続可能な調達に関するベストプラクティスの共有や促進を目的としたイベント「SPLC Summit 2019」をアメリカ・オレゴン州ポートランドにて開催した。

SPLC は、持続可能な調達をリーダーレベルで推進することを目指しており、アメリカの企業・団体を中心に約 180 機関が加盟している。持続可能な調達に関するリーダーシップのためのガイダンスを作成・発行するとともに、優れた取組をしている自治体の表彰制度も設けているほか、国連環境計画 (United Nations Environment Programme: UNEP) が事務局として活動している「持続可能な消費と生産 10 年計画枠組み (The 10 Year Framework of Programmes on Sustainable Consumption and Production Patterns : 10YFP)」の採択プログラムの一つである持続可能な公共調達 (Sustainable Public Procurement: SPP) プログラムのマルチステークホルダー・アドバイザー委員会のメンバーとして、SPP の分野において積極的な活動を国際的に広く展開している。

SPLC では、メンバー間の持続可能な調達に関する知見共有に限らず、事業者等の展示ブースの設置や様々なネットワーキング機会を活用したバイヤーとサプライヤーとのビジネスマッチングなどを目的としたオープンイベント「SPLC Summit」を 2013 年より毎年開催しており、年々その規模を拡大してきている。本年度は、27 スポンサーの支援を受けてアメリカにおいて最も環境に配慮した都市といわれるオレゴン州ポートランドで開催され、持続可能な調達に関する様々な分野の専門家、公共部門及び民間部門の調達担当者、公的機関の政策担当者、サプライヤー、バイヤーなど約 500 名が参加し、40 以上のセッションに 80 名以上のスピーカーが登壇した。特筆する点は、単なる会議に留まらず開催期間中の早朝に実施したジョギングイベントのほか、ポートランド周辺でのアクティビティの開催、会議終了後のレセプションパーティの実施など、ネットワーキング機会が充実している点は、アメリカならではと言える。また 20 日(月)には、調達担当者などのバイヤーと製品・サービス提供事業者のサプライヤーとのビジネスマッチングのセッションを終日開催するなど、他のイベントにはない特徴が垣間見えた。SPLC Summit の開催にあたり必要な資材は 100%再使用・リサイクル可能な資材を活用するとともに、会議アジェンダや会議情報を紙ではなくスマートフォンアプリで提供し、また食品など発生するすべての廃棄物のリサイクルを目標に掲げ、環境に配慮したイベントを標榜している。



会場の様子



展示ブースの様子

¹ URL: <https://www.sustainablepurchasing.org/>

(4) 協議内容

1 日目 (2019 年 5 月 21 日 (火))

a Opening Plenary: Sustainable Purchasing that Supports a Positive Future for All

SPLC Summit 2019 の開始に先立ち、SPLC の設立メンバーであり、役員会のチェアである Jason Pearson から SPLC Summit 2019 に関するイントロダクションが紹介された。

SPLC Summit 2019 は、持続可能なイベントを標榜するにあたり、持続可能性に関する様々な認証制度を運営している GreenCircle Certifie, LLC 社²と協力し、イベント運営に係る資源の循環型利用を目指しており、参加者にも積極的な協力を依頼した。イベントで排出される廃棄物の 60~70%は食品関係であると言われ、前日までに発生した約 600 ポンド(約 272kg)の廃棄物のうち食品廃棄物のほとんどがコンポスト化されていることが報告されたとともに、可能な限り飲食物を食べること、過剰な飲食を避けることなどを参加者に呼び掛けた。また、会議資料のペーパーレスをはじめ、食事に係るプラスチックやアルミなどの使い捨て資材を使用せず、埋め立て廃棄物ゼロ (Zero-Waste-to-Landfill) イベントを実現し、認証を取得する旨が発表された。



続いて、本日のスケジュールの概要を確認したのち、SPLC Summit に初めて参加する参加者及び新しく SPLC のメンバーとなった機関・団体を紹介した。そして最後に、ユニークな事柄を親しみを込めて表彰する Silly Award 2019 の実施も紹介され、参加者に興味深い場面に出くわした際は写真撮影のうえ専用メールアドレスへの投稿を呼び掛けた。

b KEYNOTE- Future Fit Leadership: The Secret to Leading Big, Fast, and Lasting Change, Ms. Leith Sharp

Harvard's Center for Health and the Global Environment の持続可能なリーダーシップのための社会人教育部門長を務める Leith Sharp からは、新しいアイデア・変化を組織内で実現させるスキームをテーマとした基調講演が行われた。

Leith Sharp は、まず 45 億年の地球の一生を 1 年である 365 日に換算すると、人類が誕生したのは地球の寿命を迎える 36 分前の 12 月 31 日 23 時 24 分であり、我々人類は地球のタイムリミットが目前に迫っていることを理解し、変化を起す必要があることを地球の寿命になぞらえながら強調した。また、直近の数百年で人口が爆発的に増加していること、1%の富裕層が 99%の人々より富を保有していること、地球が革新的な温暖化の状況であることなど、前例のない大きな問題を抱えており、全世界が



² URL: <http://www.greencirclecertified.com/>

現状から脱却する行動を取らなければならないと主張した。その点から、持続可能な開発目標（SDGs）は非常に重要な世界的目標であり、その SDGs に掲げられている持続可能な調達の導入・普及には大きな期待があると述べた。

しかしながら、組織の既存の調達プロセスを変えることは、多くの利害関係者が関わるだけでなく、その変更プロセスの複雑さゆえに、非常に難しいことが多いと指摘した。Leith Sharp は、自身が教鞭をとるハーバード大学の学生寮の照明を LED 照明に切り替えるプロジェクトに携わった際、同様の経験をしたと語った。年間 20,000 ドルの節約効果が見込まれ、3年で初期費用が回収できると学校側に提案したものの、前例がないこともあり、担当をたらい回しにされただけでなく、適宜、担当者の承諾を得る必要があったなど、そのプロセスが非常に煩雑であったほか、組織は新しいことを敬遠したがる傾向が強いということをもって体験したという。つまり、組織は変化を受け入れるキャパシティが著しく低いレベルにあることがほとんどであると述べた。

Leith Sharp は、新しいアイデアの実現に挑戦した人に対して、取組に際し組織内で行ったすべてのアクションを時系列でグラフ化（マッピング）してもらい、2,000 を超えるグラフを分析したという。分析の結果、そのアクションのグラフの形が、試みが時間と労力の無駄となってしまうフローとすべての動きがアイデアの実現に繋がった理想的なフローとの2パターンに分類されることを発見したと語った。そして、アイデアが実現するに至ったフローには、2つの組織ネットワークが機能的に結びついた取組が行われたと主張した。その1つの組織ネットワークが、多くの企業が採用している階層組織ネットワークであり、上位階層者が下位階層者を管理し、情報を階層的に管理するそのネットワークは、コントロールがしやすいものの、同位階層同士の情報交換、或いは階層全体の情報の共有には都合が悪い。一方、もう一つのネットワークは分散ネットワークであり、例えばプロジェクトなど様々な階層者から構成されるチームは、チーム一つひとつが主体性をもって物事を判断し、業務に取り組む傾向が強い。これら二つのネットワークは、しばしばお互いを理解することが困難なことが多く、いかに共通の目的意識を構築するか、ネットワーク内またはネットワーク間の活動やコミュニケーションを円滑化させる心理的安心感を生み出す雰囲気構築できるかがカギであると語った。

c Breakout Session / Round 1

Get to Know the SDGs: Explore and Discuss How Procurement Can Advance the Sustainable Development Goals

SPLC の CEO を務める Sam Hummel が本セッションのモデレーターとして登壇した。Sam Hummel は最初に SDGs の概要に触れ、2000年9月に国連ミレニアム・サミットで採択された「ミレニアム開発目標（MDGs）」の後継目標である SDGs は先進国に限らず、発展途上国、すべての人間に向けた世界共通の目標として設定されたことを紹介した。あまた、各目標の理解促進を狙い、SDGs の 17 目標を Healthy（健康）、Community（コミュニティ）、Economy（経済）、Environment（環境）、For Everyone（すべての人に向けたもの）、Forever（永遠）の6つのカテゴリーに分類して説明した。Sam Hummel は、こ

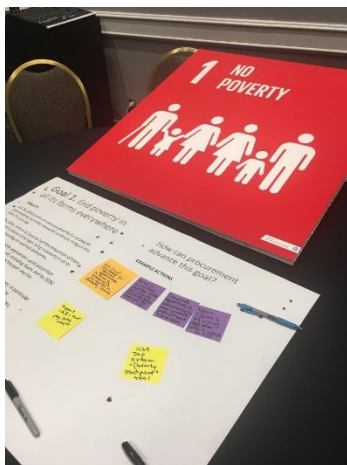
ういった世界的枠組みの必要性を述べるとともに、目標を達成させるためにはすべての人がコミットメントを示すことが最も重要であるとし、Mr. Sam Hummel がこの SDGs の時代に目標達成のための取組に関われることに強い喜びを感じていると自身の強い想いを述べ、参加者にも積極的な取組を呼び掛けた。



続いて、SDGs の採択から 3 年が経過した取組度合いについて紹介した。持続可能な開発のための世界経済人会議（WBCSD）のメンバー企業のサステナビリティレポートのレビュー（Reporting Matters³）によると、公表されたレポートの 89%が SDGs への言及を含んでおり、53%はサステナビリティ戦略に関連する SDGs に紐づけるとともにその証左となる活動報告を含んでいると述べた。さらに、レビューされたレポートの 83%が Global Reporting Initiative（GRI）を参照し、そのうちの 54%がすでに 2016 年 10 月に開始されたサステナビリティ報告書の新たな規準「GRI スタンド」を活用しているとも語った。また、12 兆ドルが SDGs に関連した投資に使われるなど、経済的にもその影響が拡大していることに言及した。

そして、SDGs の各目標とターゲットを包括的に捉えることを目的としたワークショップが行われた。参加者にハートとハンド（手）の 2 種類のシールが配布され、各テーブルに設置された目標とターゲットを読み、確実に達成されるべきであると強く願う目標についてはハートのシールを、まずはアクションを起こすべき目標についてはハンドのシールを貼付するよう課題が与えられた。異なる二つの観点をもとに各目標やターゲットを自らの想いのもと主観的に考えることで、理解を促す意図が垣間見えた。

次に、各目標を達成させるためには、調達活動がどのような役割を担うことができるかアイデアを付箋に記したうえ貼付することが求められた。このワークショップも、参加者が最も身近で、かつ理解が深い調達の観点から各目標に対して取り組むべきアクションを連想させることで、さらなる理解を深めるキッカケとさせた。その結果については、ワークショップ後にシールと付箋が貼付されたボードがロビーに展示された。



³ URL: https://docs.wbcsd.org/2018/10/Reporting_Matters_2018.pdf (英語)

d Breakout Session / Round 2

Madalyn Cioci, Minnesota Pollution Control Agency “Connecting Sustainable Purchasing with Organizational Imperatives”

Sustainable Purchasing 102: Uncovering Policy Alignment and Engaging Internal Stakeholders to Support your sustainable Purchasing

ミネソタ州公害管理局の Madaly Cioci からは、持続可能な調達をどのように組織の重要施策に紐づけるかといったテーマで発表があった。Madaly Cioci は、アメリカ東海岸ニュージャージー州にあるラトガス大学でのグリーン清掃の取組事例を冒頭に紹介した。洗剤を中心に清掃用品をグリーン製品に変更し、有害な化学物質を含まない洗剤を使用することで清掃員の健康被害が減少したとともに、洗剤等の使用料や作業量も減少したことで、清掃に係る人件費を 20%削減することに成功したという。また、従業員等のスタッフがこのようなグリーン製品を自宅でも使用したいとの声を受け、割引価格で販売する制度も導入され、従業員の環境意識の向上にも貢献した例を挙げ、持続可能な調達を推進することのメリットは一つだけではないことを強調した。



そして、持続可能な調達を組織の重要施策として展開するためには、まず持続可能な調達の実施によって組織にもたらす便益を整理することを案内した。組織は、財政責任をはじめ環境的責任、社会的責任を抱え、組織の従業員の健康を守る義務があるとし、これらに持続可能な調達が果たす役割を紐づけることが重要であると語った。例えば、持続可能な調達では製品のライフサイクル全体におけるコストを考慮することから、長期的な観点でコスト削減につなげることとなり、組織の財務責任に貢献することとなる。また、持続可能な製品を調達することで環境負荷低減に貢献するだけでなく、社会的な責任を果たすことになると述べた。これらの便益を組織の理念やミッションに紐づけることで、持続可能な調達の導入・実施を展開し易くできると話した。

Liana Alvarez, Advisor, Sustainable procurement, ExxonMobil, Lauren Zimmerman, Sustainability Lead, ExxonMobil

Global Sustainable Procurement

石油メジャーで総合エネルギー企業であるエクソンモービル社の持続可能な調達部門にてアドバイザーを務める Liana Alvarez と部門長である Lauren Zimmerman から、エクソンモービル社のグローバルな持続可能な調達について発表があった。

エクソンモービル社は、会社規模も大きく、グローバルに展開している会社であり、約 2,000 名の調達担当者が多様な製品・サービスを調達している。そこで、エクソンモービル社では「グローバル持続可能な調達アドボケートネットワーク」を構築し、ネットワークを通じ持続可能な調達の周知や知見の蓄積を図っているほか、ネットワークを拡大してさらなる調達パフォーマンスの向上を目指していると述べた。そして、サプライチェーン